

Ⅲ. 調査結果（各論分析）

1. 男女平等や女性の地位について

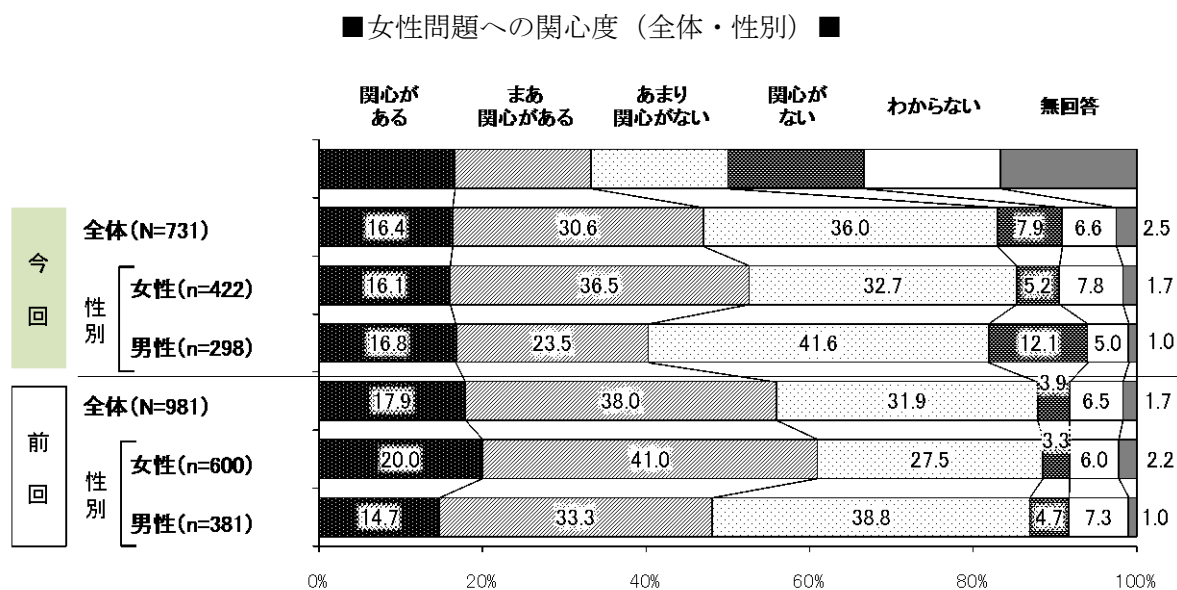
（1）女性問題への関心度

問1. あなたは男女平等や女性の地位向上をテーマとする話題に関心がありますか。（○印は1つ）

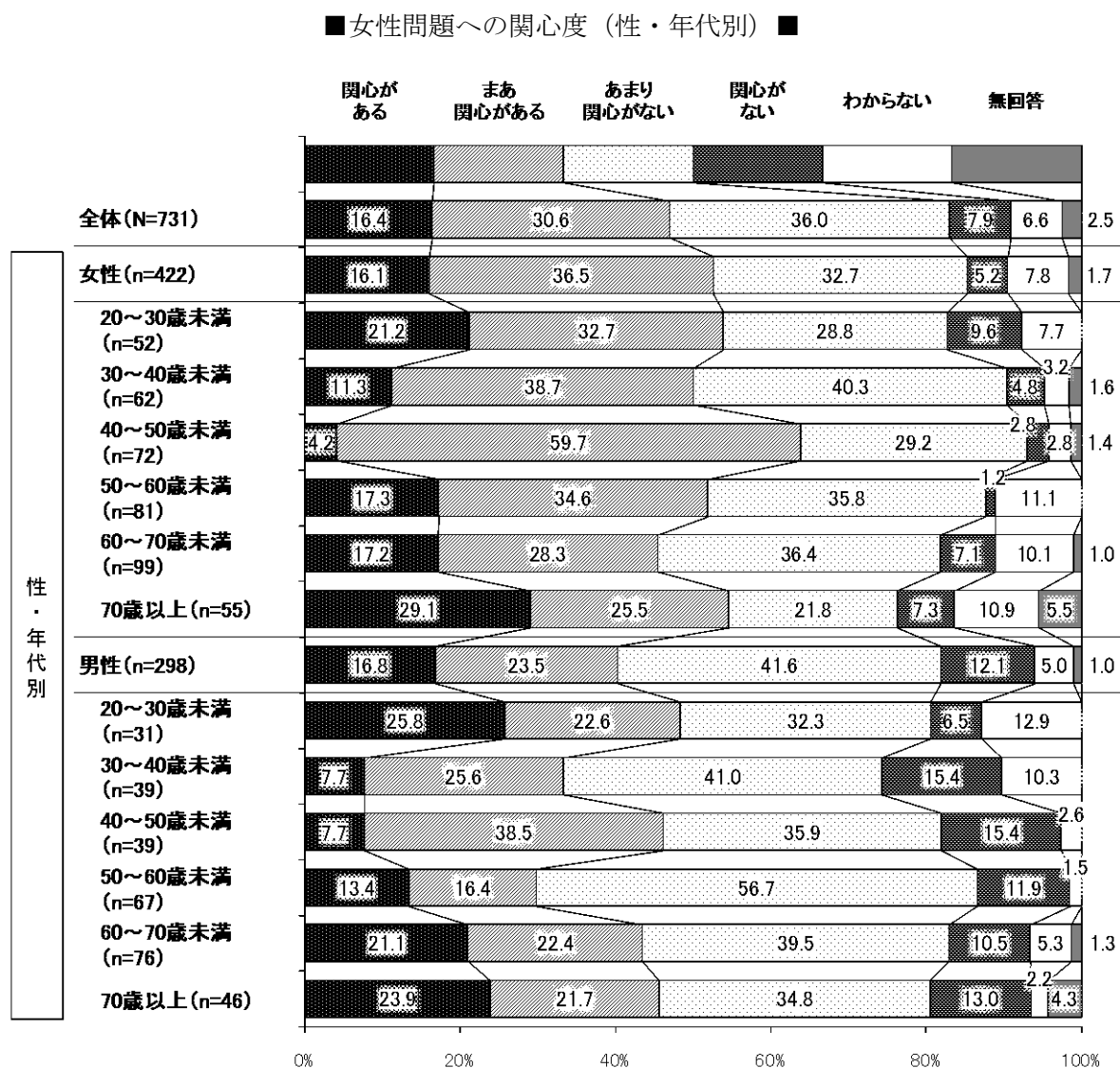
男女平等や女性の地位向上をテーマとする話題に関心があるかどうか尋ねたところ、『関心がある』（＝「関心がある」＋「まあ関心がある」）と回答した人の割合は47.0%で前回調査の55.9%を8.9ポイント下回っており、関心が低くなっている傾向がみられる。

性別にみると、『関心がある』と回答した人の割合は女性が52.6%、男性が40.3%と女性が男性を12.3ポイントも上回る結果となっている。

前回調査と比較すると、女性は前回調査（61.0%）から8.4ポイント、男性は前回調査（48.0%）から7.7ポイント下回る結果となっており、女性問題への関心度は男女とも低くなっている傾向がみられる。



性・年代別にみると、『関心がある』と回答した人の割合は女性は40～50歳未満（63.9%）が最も高く、次いで70歳以上（54.6%）、20～30歳未満（53.9%）の順となっている。一方男性は、20～30歳未満（48.4%）の割合が最も高く、次いで40～50歳未満（46.2%）、70歳以上（45.6%）の順となっている。



(2) 男女共同参画関連の法律の認知

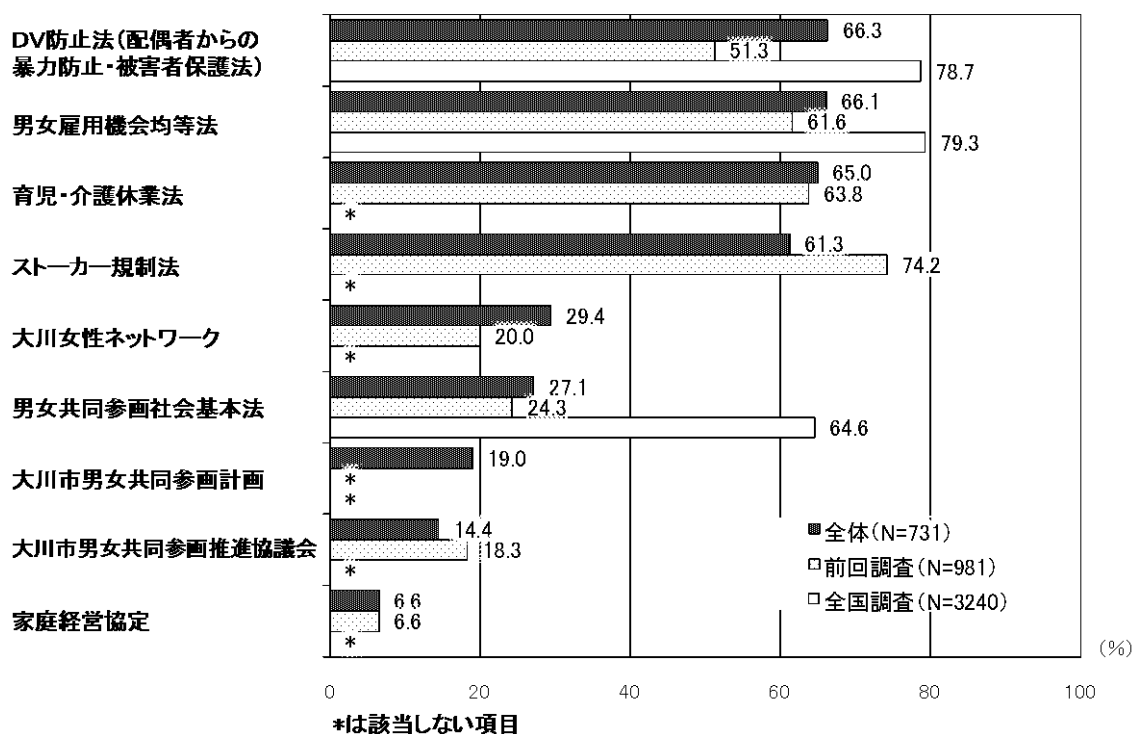
問2. 次にあげることがらで、あなたが見たり聞いたりしたことのあるものをすべて選んでください。(○印はいくつでも)

男女共同参画社会に向けて制定された法律や、批准された条約などについて、見たり聞いたりしたことのあるものを尋ねたところ、「DV防止法」が66.3%で最も認知度が高く、次いで「男女雇用機会均等法」(66.1%)、「育児・介護休業法」(65.0%)、「ストーカー防止法」(61.3%)の順となっており、これらについては過半数以上の認知度が認められた。

前回調査と比較すると、前回最も認知度が高かった「ストーカー法」(74.2%)の認知度が12.9ポイント下がり、3位となっており、逆に前回は51.3%だった「DV防止法」が15.0ポイント増加して1位となっている点が特徴的である。

全国調査と比較すると、「DV防止法」、「男女雇用機会均等法」、「男女共同参画社会基本法」のいずれも全国調査よりも認知度が低く、特に「男女共同参画社会基本法」については半分以下の認知度となっている。

■男女共同参画関連の法律の認知(全体) ■

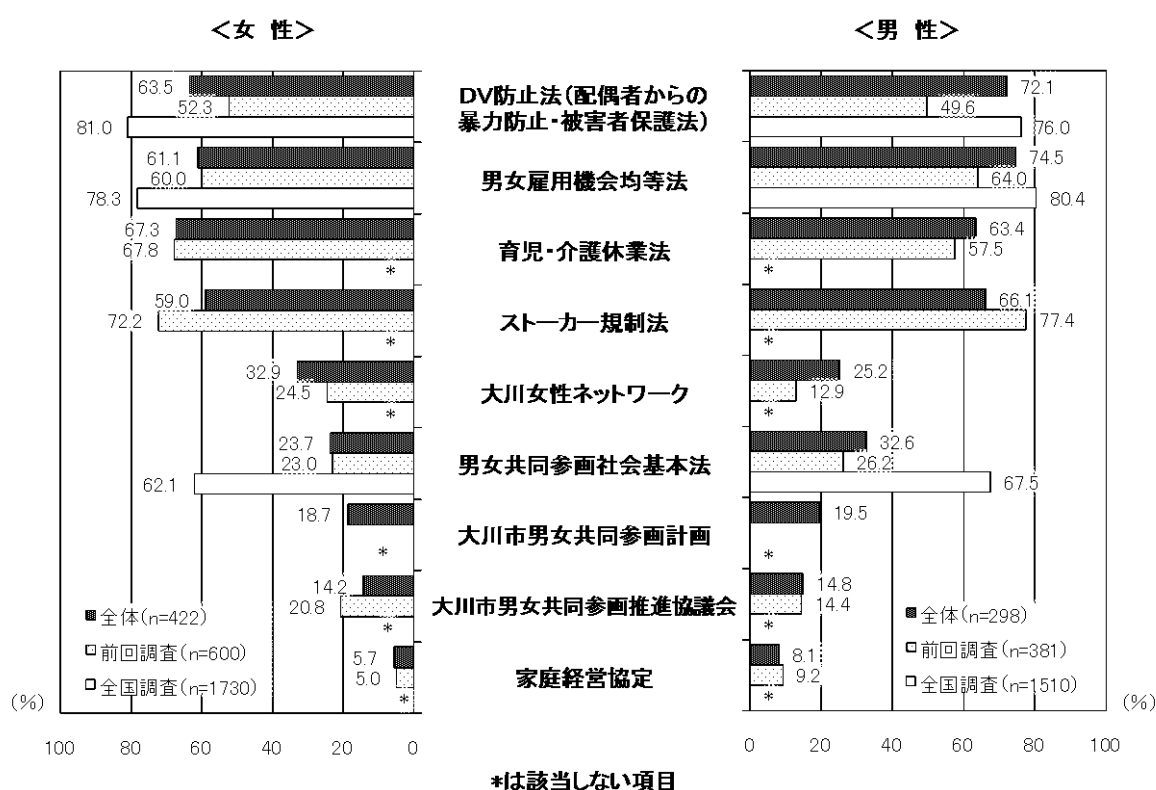


性別にみると、男女ともに「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」、「ストーカー規制法」、「DV防止法」の認知度が過半数以上を占めて高い。また、「育児・介護休業法」と「大川女性ネットワーク」以外はいずれも男性の認知度が女性の認知度を上回っている。

前回調査と比較すると、前回男女ともに7割以上と最も認知度の高かった「ストーカー規制法」は、女性が13.2ポイント、男性が11.3ポイントと大きく減少し、逆に前回調査では半数程度の認知度であった「DV防止法」は女性が11.2ポイント、男性が22.5ポイントと大幅に増加している。

全国調査と比較すると、男女とも、いずれの項目についても全国調査を大きく下回っており、特に「男女共同参画社会基本法」については、女性で38.4ポイント、男性で34.9ポイントと半分以下の認知度となっている。

■男女共同参画関連の法律の認知（性別） ■



性・年代別にみると、女性では「男女雇用機会均等法」と「ストーカー規制法」、「DV防止法」は30～40歳未満（「DV防止法」については40～50歳未満も最大値）をピークに、年代が高くなるほど徐々に認知度が低くなる傾向がみられる。また、「育児・介護休業法」も40～50歳未満（76.4%）をピークに、年代が高くなるほど徐々に認知度が低くなる傾向がみられる。逆に「大川市男女共同参画計画」や「大川市男女共同参画推進協議会」、「大川女性ネットワーク」など、大川市に関連する計画などの認知度は、年代が高くなるほど認知度も高くなる傾向がみられる。

男性は、「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」、「ストーカー規制法」、「DV防止法」で70歳以上の認知度が他の年を大きく下回る傾向がみられる。一方で「男女共同参画社会基本法」は逆に20～30歳未満の認知度（12.9%）が他の年を大きく下回っている。また、女性と同様に大川市に関連する計画などは、概ね年代が高くなるほど認知度も高くなる傾向がみられる。

■男女共同参画関連の法律の認知（性・年代別）■

	サンプル数	DV防止法（法の暴力防止・被害者保護）	男女雇用機会均等法	育児・介護休業法	ストーカー規制法	大川女性ネットワーク	男女共同参画社会基本法	大川市男女共同参画計画	大川市男女共同参画推進協議会	家庭経営協定	無回答	
全体	731	66.3	66.1	65.0	61.3	29.4	27.1	19.0	14.4	6.6	7.5	
性・年代別	女性計	422	63.5	61.1	67.3	59.0	32.9	23.7	18.7	14.2	5.7	6.6
	20～30歳未満	52	63.5	67.3	71.2	51.9	7.7	26.9	9.6	1.9	3.8	5.8
	30～40歳未満	62	80.6	75.8	74.2	74.2	21.0	19.4	9.7	6.5	3.2	-
	40～50歳未満	72	80.6	68.1	76.4	69.4	30.6	22.2	15.3	9.7	6.9	2.8
	50～60歳未満	81	71.6	61.7	66.7	61.7	40.7	25.9	21.0	16.0	4.9	6.2
	60～70歳未満	99	51.5	51.5	61.6	50.5	40.4	22.2	24.2	22.2	7.1	12.1
	70歳以上	55	32.7	47.3	56.4	47.3	47.3	27.3	29.1	23.6	7.3	10.9
	女性・年齢無回答	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-
	男性計	298	72.1	74.5	63.4	66.1	25.2	32.6	19.5	14.8	8.1	6.4
	20～30歳未満	31	77.4	80.6	61.3	61.3	3.2	12.9	3.2	6.5	19.4	6.5
	30～40歳未満	39	89.7	79.5	79.5	89.7	15.4	30.8	10.3	12.8	-	2.6
	40～50歳未満	39	87.2	79.5	56.4	76.9	20.5	28.2	15.4	7.7	10.3	-
	50～60歳未満	67	67.2	80.6	71.6	70.1	28.4	32.8	19.4	13.4	10.4	6.0
	60～70歳未満	76	77.6	71.1	68.4	68.4	39.5	39.5	27.6	17.1	6.6	6.6
70歳以上	46	39.1	58.7	37.0	30.4	23.9	39.1	28.3	26.1	4.3	15.2	
男性・年齢無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無回答	11	18.2	27.3	18.2	18.2	9.1	9.1	18.2	9.1	-	72.7	

(単位:%)

(3) 大川市における女性の社会的地位の向上感

問3. あなたは、全体的にみて大川市ではこの10年くらいの間に女性の社会的地位は高まってきていると思いますか。(○印は1つ)

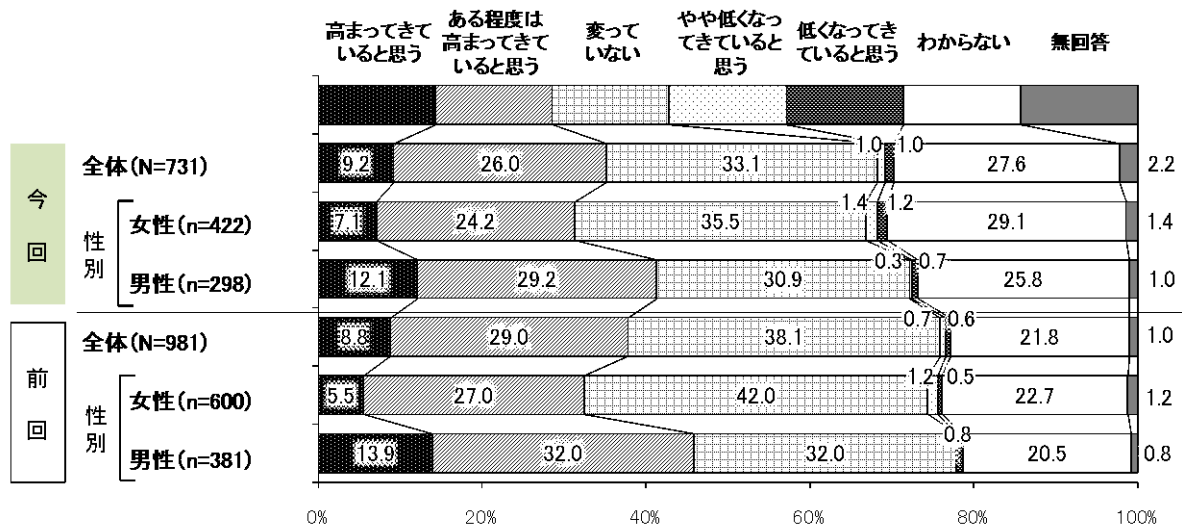
大川市でこの10年くらいの間に女性の社会的地位は高まってきていると思うか尋ねたところ、『高まってきていると思う』(=「高まってきていると思う」+「ある程度は高まってきていると思う」)と回答した人の割合は35.2%で、『低くなってきていると思う』(2.0%)を大きく上回っています。また「変わっていない」と回答した人は33.1%となっている。

前回調査と比較すると『高まってきていると思う』と回答した人の割合は前回調査の37.8%から2.6ポイント下回っており、女性の社会的地位の高まりを感じている人は少なくなっている傾向がみられる。

性別にみると、『高まってきていると思う』と回答した人の割合は、女性が31.3%、男性が41.3%と、男性が女性を10.0ポイント上回っている。

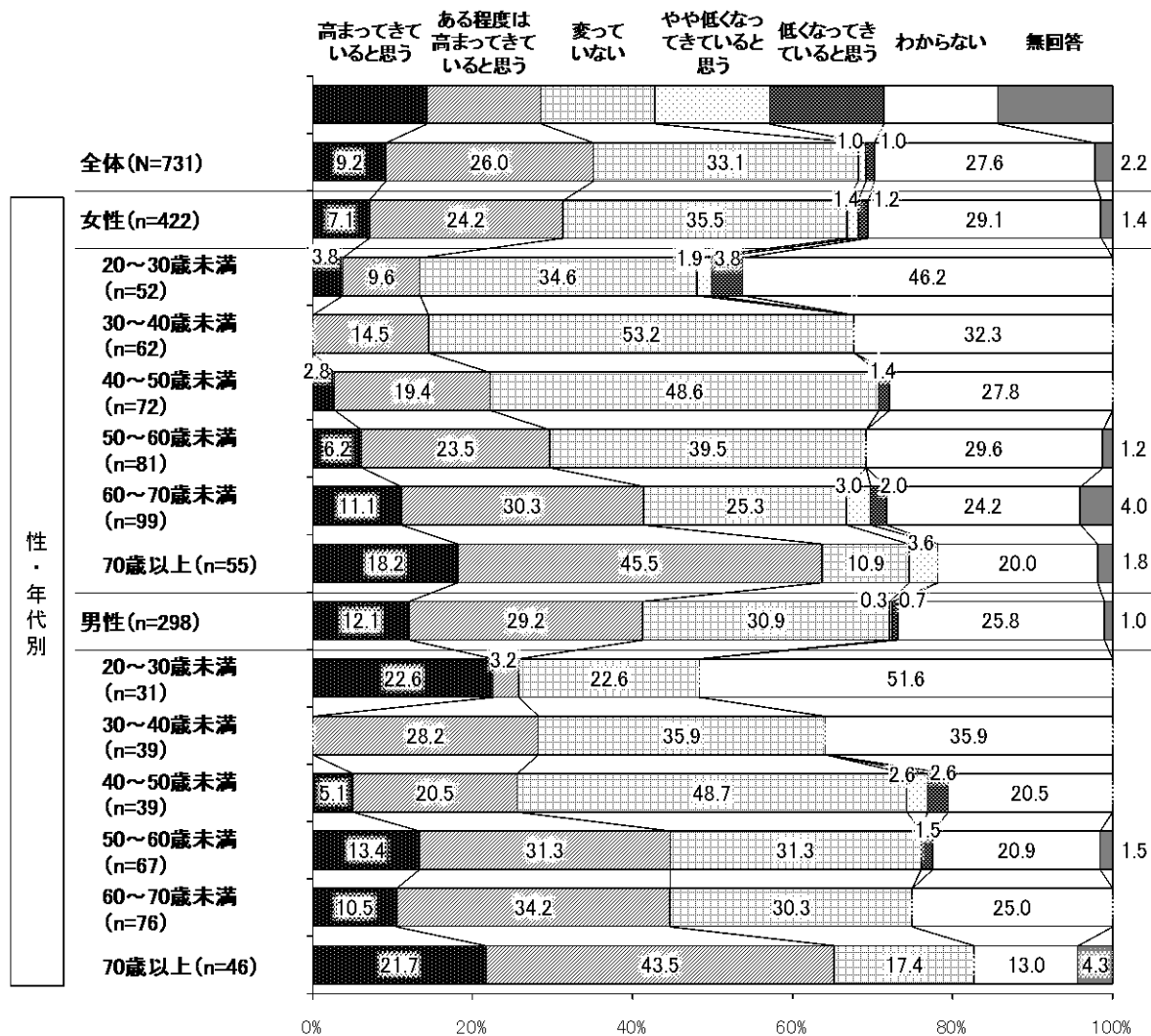
前回調査と比較すると、女性は前回調査(32.5%)から1.2ポイント、男性は前回調査(45.9%)から4.6ポイント低くなっており、女性の社会的地位の向上感を感じている人は減少傾向にあると考えられる。

■大川市における女性の社会的地位の向上感(全体・性別)■



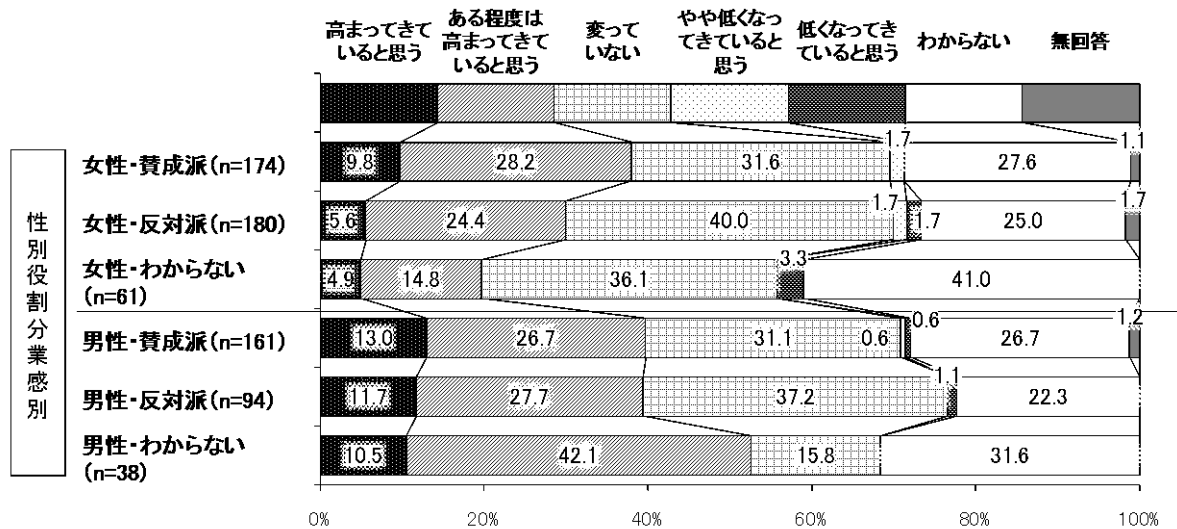
性・年代別にみると、『高まってきていると思う』と回答した人は、男女とも年代が高くなるほど割合も高くなっている。一方で「変わっていない」と回答した人の割合は、女性は30歳以上、男性は40歳以上で年代が低くなるほど多くなっている。男女とも20～30歳未満と、男性の30～40歳未満は「わからない」と回答した人の割合が高い。

■大川市における女性の社会的地位の向上感（性・年代別）■



性・性別役割分業感別にみると、『高まってきていると思う』と回答した人は、女性は『賛成派』（＝「賛成」＋「どちらかといえば賛成」）が38.0%で『反対派』の30.0%を上回っているが、男性は『賛成派』が39.7%と『反対派』（39.4%）がほぼ同程度となっている。

■大川市における女性の社会的地位の向上感（性・性別役割分業感別）■



(4) 男女の地位の平等感

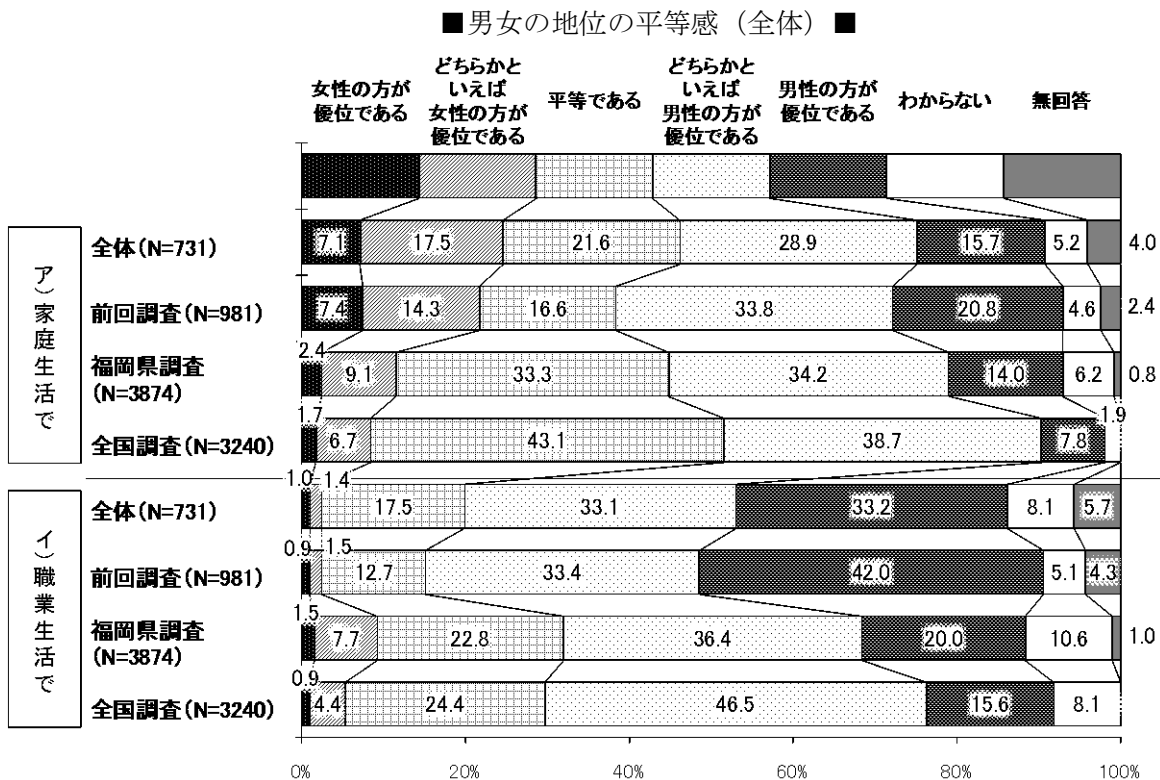
問4. あなたは、次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(ア) から (キ) の分野ごとに、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(○印はそれぞれ1つ)

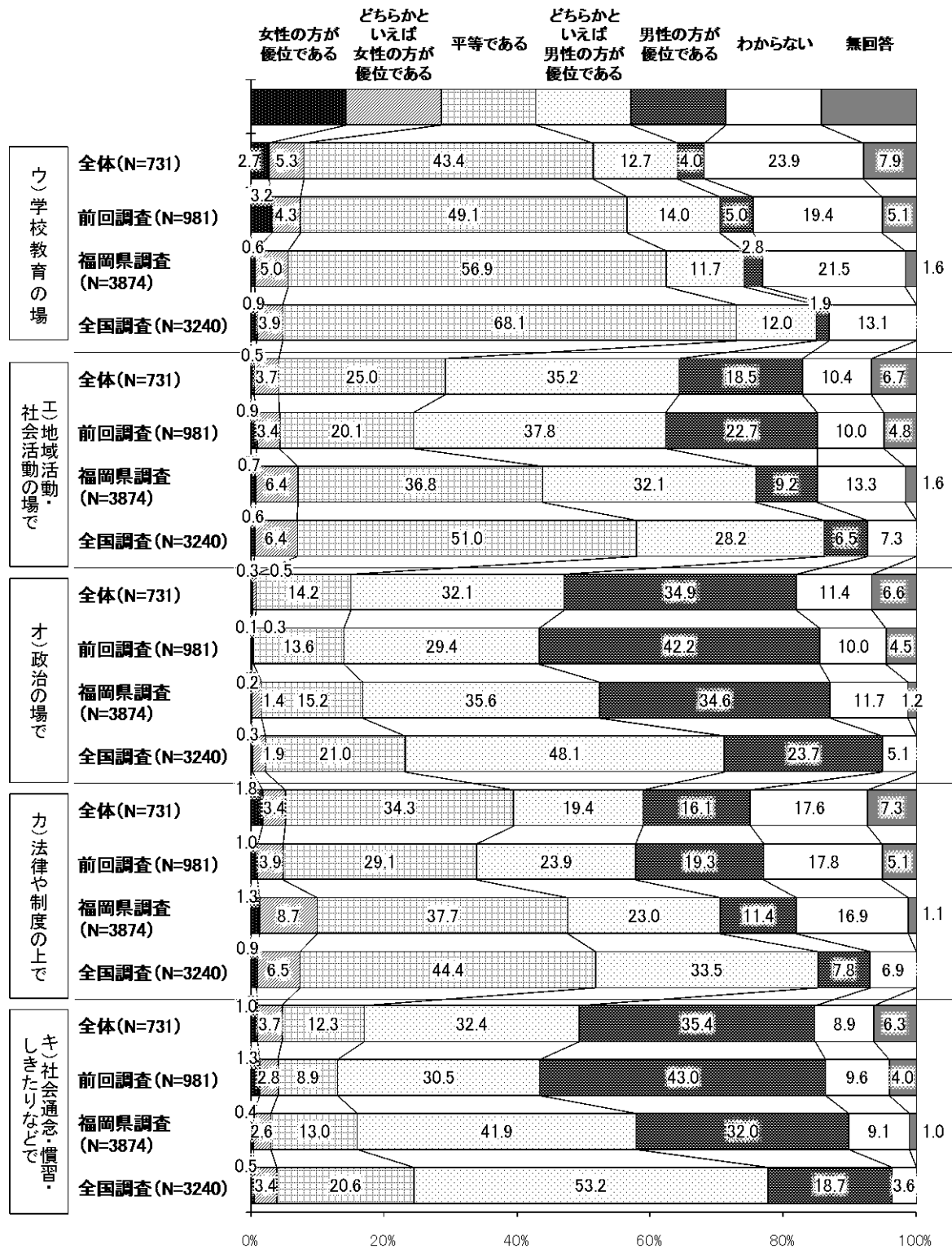
男女の地位の平等感について尋ねたところ、すべての項目で『男性優位派』(=「男性の方が優位である」+「どちらかといえば男性の方が優位である」)と回答した人が、『女性優位派』(=「女性の方が優位である」+「どちらかといえば女性の方が優位である」)と回答した人の割合を上回っており、特に「職業生活」、「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」では60ポイント以上と大きく差が開いている。

「平等である」と回答した人が最も多かった項目は「学校教育の場」(43.4%)となっており、次いで「法律や制度の上」(34.3%)、「地域活動・社会活動の場」(25.0%)の順となっている。

福岡県の調査と比較すると、いずれの分野についても「平等である」と回答した人の割合は、県の値を下回っており、大川市は県内でも男女の地位の平等を感じている人が少ない傾向がみられる。特に「家庭生活」、「学校教育」、「地域活動・社会活動の場」については、福岡県の値を10ポイント以上下回っている。

全国調査と比較すると、県の調査と同様いずれの分野についても「平等である」と回答した人の割合は、国の値を下回っている。





性別にみると、『男性優位派』の割合が『女性優位派』、「平等である」のいずれをも大きく上回っている項目は、男女とも「家庭生活」、「職業生活」、「地域活動・社会活動の場」、「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」である。一方で「平等である」の割合が『女性優位派』、『男性優位派』のいずれをも上回っている項目は、男女とも「学校教育の場」のみとなっている。男女の差が大きく出た項目は、「法律や制度の上」で、女性は『男性優位派』が41.5%と最も割合が高く、次いで「平等である」(29.4%)となっているのに対し、男性は「平等である」が40.9%と最も高く、次いで『男性優位派』(27.5%)となっている。ここから、法律や制度については、男性は女性と男性は既に十分平等であると感じている一方で、女性はまだ男性に優位であると感じているという傾向がみられる。

福岡県と全国の調査と比較すると、女性は「平等である」と回答した人の割合が「社会通念・慣習・しきたりなど」で10.0%と、県の値(9.6%)を若干ではあるが上回っている。その他の項目についてはいずれも、「平等である」と回答した人の割合は、男女ともに県、国の値を下回っている。

